



厚生労働省「小児がん拠点病院の指定に関する検討会」

「小児がん拠点病院の指定に関する検討会」開催要綱

1. 趣旨

「がん」は小児の病死原因の第1位である。小児がんの年間新規患者数は2000人から2500人と少ないが、小児がんを扱う施設は約200程度と推定され、小児がん患者が必ずしも適切な医療を受けられていないことが懸念されている。

本検討会では、「小児がん医療・支援のあり方に関する検討会」において平成24年9月にとりまとめられた「小児がん医療・支援の提供体制のあり方について（報告書）」を踏まえて策定された「小児がん拠点病院の整備について」（平成24年9月7日健発0907第2号）に基づき、申請のあった医療機関について、小児がん拠点病院の指定のための検討を行う。

2. 検討事項

- (1) 「小児がん拠点病院の整備について」に示す指定要件の充足度の検討及び小児がん拠点病院の適切な運営を行うに当たっての必要な助言等。

3. その他

- (1) 本検討会は健康局長が別紙の構成員の参集を求めて開催する。
 (2) 本検討会には、構成員の互選により座長をおき、検討会を統括する。
 (3) 本検討会には、必要に応じ、別紙構成員以外の有識者等の参集を依頼することができるものとする。
 (4) 本検討会は、原則として公開とする。
 (5) 本検討会の庶務は、厚生労働省健康局がん対策・健康増進課が行う。
 (6) この要綱に定めるもののほか、本検討会の開催に必要な事項は、座長が健康局長と協議の上、定める。

「小児がん拠点病院の指定に関する検討会」 構成員名簿

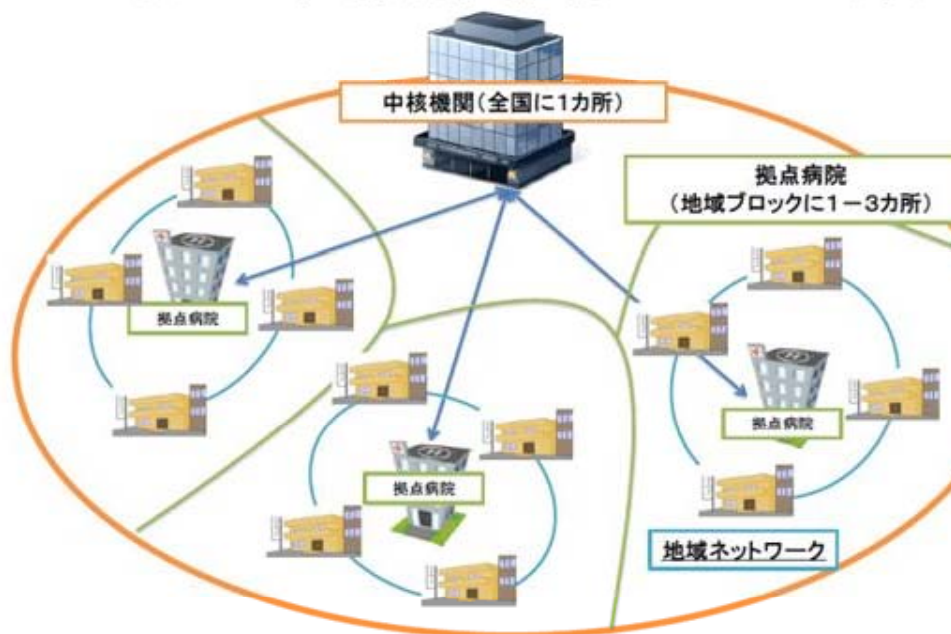
天野 慎介	特定非営利法人グループ・ネクサス理事長
石井 榮一	愛媛大学大学院医学系研究科小児医学分野教授
小俣 智子	武蔵野大学人間科学部社会福祉学科准教授
○垣添 忠生	公益社団法人日本対がん協会会長
豊田 清一	宮崎県立宮崎病院院長
韭澤 融司	杏林大学小児外科教授
水谷 修紀	国立大学法人東京医科歯科大学小児科教授
道永 麻里	公益社団法人日本医師会常任理事
馬上 祐子	小児脳腫瘍の会 副代表
柳澤 正義	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所名誉所長
山本 要	秋田県健康福祉部次長

(五十音順・敬称略、○は座長)

厚生労働省第5回小児がん拠点病院の指定に関する検討会(2014年12月19日開催)資料

国の小児がん拠点病院とネットワーク

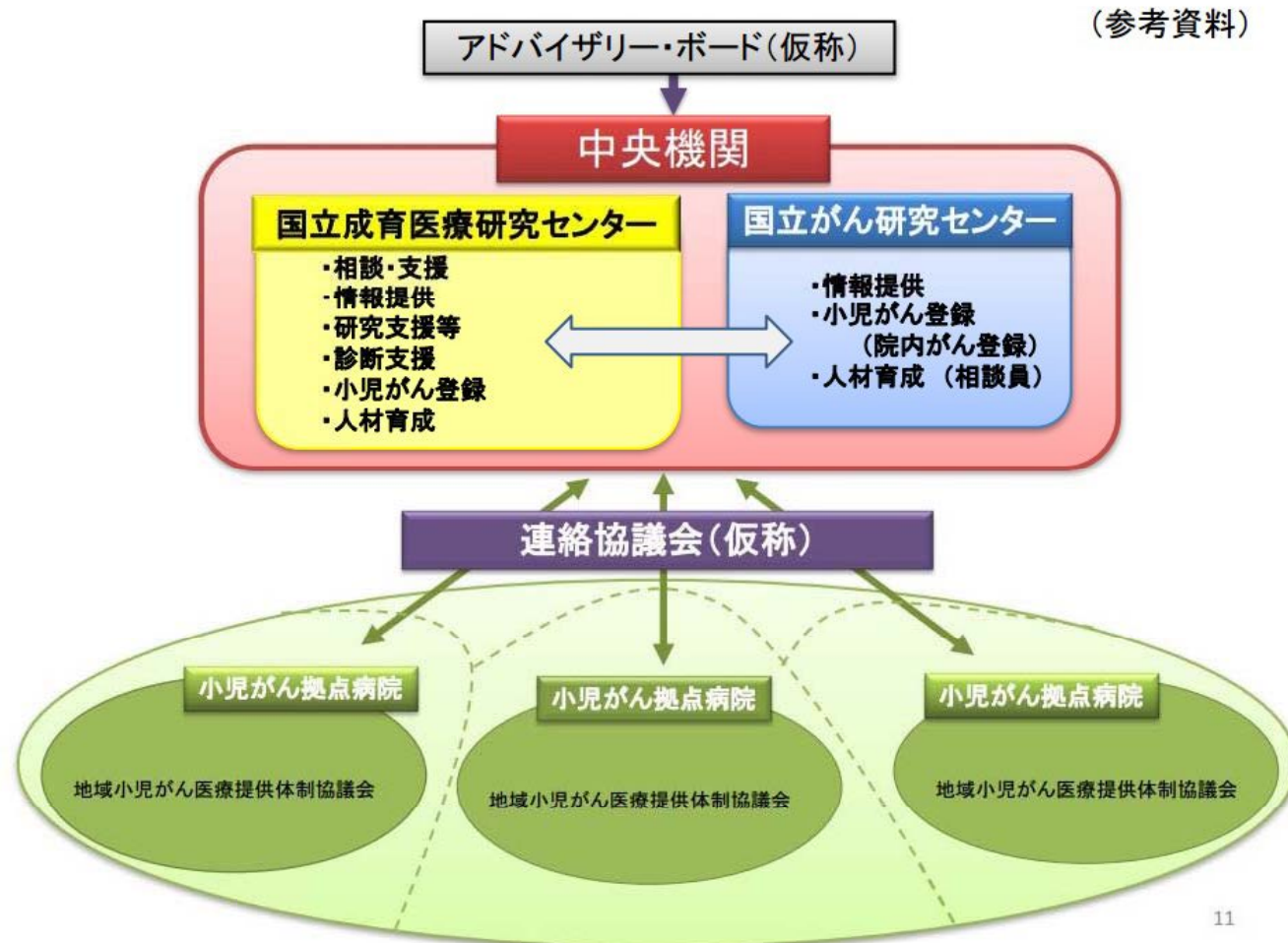
小児がん医療提供体制のイメージ(案)



	都道府県名	医療機関名
1	北海道	北海道大学病院
2	宮城	東北大学病院
3	埼玉	埼玉県立小児医療センター
4	東京	国立成育医療研究センター
5	東京	東京都立小児総合医療センター
6	神奈川	神奈川県立こども医療センター
7	愛知	名古屋大学医学部附属病院
8	三重	三重大学医学部附属病院
9	京都	京都大学医学部附属病院
10	京都	京都府立医科大学附属病院
11	大阪	大阪府立母子保健総合医療センター
12	大阪	大阪市立総合医療センター
13	兵庫	兵庫県立こども病院
14	広島	広島大学病院
15	福岡	九州大学病院

厚生労働省「小児がん医療・支援の提供体制のあり方について」報告書
 厚生労働省「小児がん拠点病院選定結果のまとめ(報告書)」

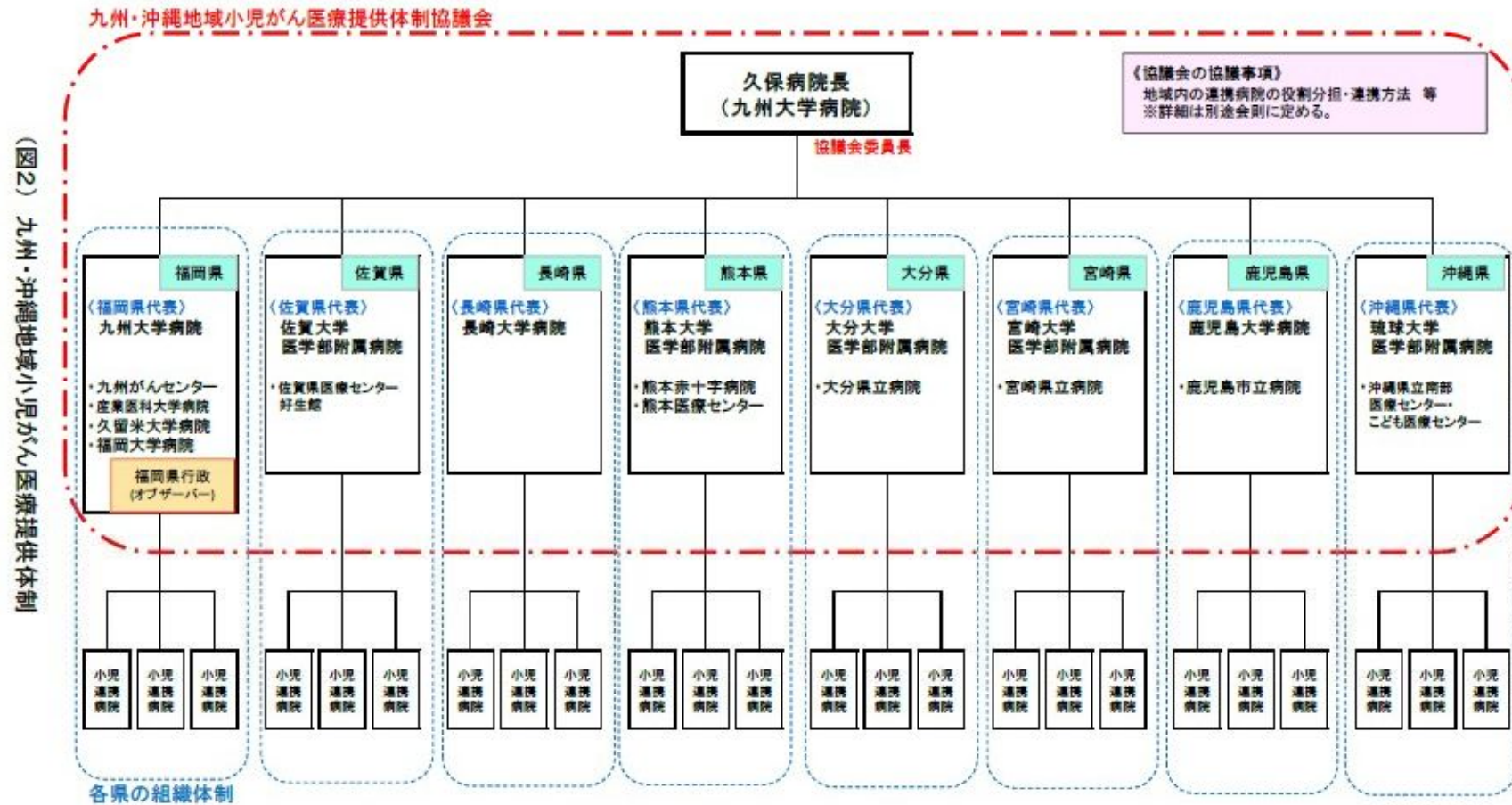
小児がん中央機関



厚生労働省第5回小児がん拠点病院の指定に関する検討会(2014年12月19日開催)資料

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制(九州大学提出資料)

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制



厚生労働省第5回小児がん拠点病院の指定に関する検討会(2014年12月19日開催)資料

国立成育医療研究センター小児がんセンター



独立行政法人
国立成育医療研究センター
National Center for Child Health and Development

| 交通案内 | サイトマップ | in English |

代表：03 - 3416 - 0181 予約センター：03 - 5494 - 7300

センター **病院** 研究所

国立成育医療研究センターの敷地内は全面禁煙です。
ご協力をお願い致します。

トップ

病院長挨拶

病院紹介

外来診療

入院診療

救急診療

診療科・部門

看護部

薬剤部

医療連携室

国立成育医療研究センター > 病院 > 診療科・部門 > 小児がんセンター

▶ **診療科・部門**

- ▶ [総合診療部](#)
- ▶ [器官病態系内科部](#)
- ▶ [生体防御系内科部](#)
- ▶ [小児がんセンター](#)
- ▶ [臓器・運動器病態外科部](#)
- ▶ [感覚器・形態外科部](#)
- ▶ [こころの診療部](#)
- ▶ [手術・集中治療部](#)
- ▶ [围産期・母性診療センター](#)
- ▶ [臓器移植センター](#)
- ▶ [放射線診療部](#)
- ▶ [臨床検査部](#)
- ▶ [ライソゾーム病センター](#)
- ▶ [病理診断部](#)
- ▶ [教育研修部](#)
- ▶ [栄養管理部](#)
- ▶ [薬剤部](#)

小児がんセンター

国立成育医療研究センターは、2013年9月に小児がんセンターを開院し、小児がんにおける診療体制・支援体制のより一層の充実をめざしています。

小児がんは国内で発生するすべてのがんのうち1割に過ぎませんが、5歳以上のこどもの病死原因の第1位であり、こどもにとっても生命を脅かす最大の病気です。年間に2,000-2,500人のこども達ががんと診断され、幼い命ががんとのために失われることが少なくありません。

小児がんに対する診断、治療は著しい進歩を遂げています。現在、がんと診断されたこども達の約70%に長期生存が期待されます。小児がんは克服できる可能性が高い病気になってきており、小児がんの経験者は決してまれではありません。

小児がんは、2012年6月に閣議決定された「がん対策推進基本計画」において、重点的に取り組むべき課題の一つとして新たに掲げられました。基本計画において、小児がん患者とその家族が、安心して適切な医療や支援を受けられるような環境の整備をめざし、「小児がん拠点病院」を整備することが目標に定められました。2013年3月に厚生労働省は、全国の15の病院を小児がん拠点病院に指定しました。国立成育医療研究センターは、その小児がん拠点病院のひとつに指定されています。

小児がんの患者さんおよびその家族のみならず、安心して治療を受けることができ、一日も早く普通の生活が送れるように、全面的にサポートしていきたいと思っております。

小児がんセンターとは

小児がんの診療には、多くの小児専門医療の集結が求められます。より良い小児がん診療を提供するためには、さまざまな専門知識、経験、技術を集める必要があります。小児がんセンターは、診療部門、研究部門、患者支援部門に大きく分かれ、病院、研究所が互いに協力して、各診療科を横断的に統合した体制を目指し、小児医療の専門機能を結集して小児がん診療を行っています。

国立成育医療研究センターホームページより

国立がん研究センター小児がん情報サービス(2014年4月22日公開)



国立がん研究センター
小児がん情報サービス **ganjoho.jp**

医療関係者向けのお知らせ

このサイトについて

サイトマップ

HOME

小児がんの解説

病院を探す

検査・診断・治療

生活・療養

支援と制度

資料



小児がんの解説



個々のがんについて、基礎知識・検査・診断・治療・生活支援・フォローアップに分けて解説します。

[詳しくみる⇒](#)

検査・診断・治療



小児がんに関する検査や診断、治療の全般について知ることで、不安を軽くすることができます。

[詳しくみる⇒](#)

お知らせ

2014年04月22日：「小児がん情報サービス」を公開しました。

2014年03月27日：国立がん研究センター【プレスリリース】小児の難治性神経芽腫 医師主導治験実施

生活や学校について



病院内で学べる院内学級、家族のための滞在施設など、さまざまな制度と施設が用意されています。

[詳しくみる⇒](#)

医療費の支援



小児がんの治療には、負担を軽減するさまざまな助成制度が用意されています。

[詳しくみる⇒](#)

心のケア



子どもと家族のみなさんの心のケアと、周囲の方々に知ってほしい情報をまとめました。

長期フォローアップ



小児がんでは、治療が終わった後も病気や治療の影響を長期間見守る必要があります。

国立がん研究センターホームページより

- 生活・療養
- ▶ [子どものケア](#)
- ▶ [治療が終わって](#)
- [退院後の生活](#)
- [長期フォローアップと晩期合併症](#)
- [再発・転移について](#)
- ▶ [家族のケア](#)
- ▶ [まわりの方へ](#)

[HOME](#) > [生活・療養](#) > [治療が終わって](#) > [長期フォローアップと晩期合併症](#)

✿ 長期フォローアップと晩期合併症

更新日：2014年04月22日 [[更新履歴](#)]

晩期合併症とは [長期フォローアップ](#)

➤ 晩期合併症とは

小児がんは、治癒するようになってきた一方、お子さんが発育途中であることなどから、成長や時間の経過に伴って、がん(腫瘍)そのものからの影響や、薬物療法、放射線治療など治療の影響によって生じる合併症がみられます。これを「晩期合併症(晩期障害)」といいます。晩期合併症は、小児がん特有の現象です(表1)。

主な晩期合併症には、成長発達の異常(内分泌(ないぶんびつ)異常を含む)【身長発育障害、無月経、不妊、肥満、やせ、糖尿病】、中枢神経系の異常【白質脳症、てんかん、学習障害】、その他の臓器異常【心機能異常、呼吸機能異常、肝機能障害、肝炎、免疫機能低下】、続発腫瘍(二次がん)【白血病、脳腫瘍、甲状腺がん、その他のがん】などがあります。

晩期合併症の多くは、がんの種類、治療の内容、その治療を受けたときの年齢などに関係します。ほとんどの晩期合併症は、年齢に伴って発症しやすくなり、治療終了後何十年も経過してから症状があらわれることもあります。

表1 小児がんの晩期合併症 (by SmitaBhatia)

成長・発達への影響：身長伸び、骨格・筋・軟部組織、知能・認知力、心理的・社会的成熟、性的成熟

国立がん研究センターホームページより

国立がん研究センター希少がんセンター（2014年4月28日公開）



独立行政法人 国立がん研究センター

ホーム 交通案内

文字サイズ | 拡大 | 標準 | 縮小 |

ホーム 国立がん研究センターについて 情報公開 研究推進 お知らせ 法人に関する情報

ホーム > 希少がんセンター

患者さんとともに、希少がんの克服に挑む
希少がんセンター Rare Cancer Center

希少がんについて
希少ながん、それぞれについて解説。
肉腫・GIST・小児がん・脳腫瘍・眼腫瘍
皮膚腫瘍。

希少がんホットライン 詳しく見る
03-3542-2511 におかけいただき、
「希少がんホットラインにつないで」
とおっしゃってください。

診断と治療
希少がんの診断や外科手術、薬物療法、
放射線治療、IVRを紹介。

リハビリテーション
希少がんの治療過程や治療後にあらわれる
障害に対するリハビリテーションについて
解説。

希少がんセンターについて
がんに関する正しい情報と医療機関検索

治験情報
新しい治療方法を開発するための基礎研究

がん対策情報センター

研究所

国立がん研究センターホームページより

- 希少がんセンターTOP
- 希少がんについて
- 希少がんホットライン
- 診断と治療
- リハビリテーション
- 希少がんセンターについて
- 治験情報
- がん対策情報センター
- 研究所
- 中央病院
- 東病院
- 受診のご案内
- セカンドオピニオン

ホーム > 希少がんセンター > 希少がんについて

希少がんについて

希少といわれるがんの種類やその治療法などの概要を紹介しています。これから治療を受ける方、治療が始まっている方、そしてそのご家族のみなさんの参考になればと思います。

<h3>肉腫（サルコーマ）</h3> <ul style="list-style-type: none"> 骨の肉腫 軟部肉腫 体幹の肉腫 後腹膜の肉腫 子宮肉腫 小児の肉腫 小児の固形悪性腫瘍 GIST 	<h3>脳腫瘍</h3> <ul style="list-style-type: none"> 神経膠腫（グリオーマ） 膠芽腫 乏突起膠腫 髄芽腫 星細胞腫 中枢性悪性リンパ腫 胚細胞腫 など
<h3>皮膚腫瘍</h3> <ul style="list-style-type: none"> 悪性黒色腫 有棘細胞がん 汗腺がん 脂腺がん 血管肉腫 乳房外バジレット病 メルケル細胞がん 毛包がん など 	<h3>眼腫瘍</h3> <ul style="list-style-type: none"> 網膜芽細胞腫 脈絡膜悪性黒色腫 眼内リンパ腫 眼瞼腫瘍 涙腺がん 眼付属器リンパ腫 眼窩肉腫 視神経腫瘍

国立がん研究センターホームページより

3. 希少がんホットラインのご利用について

03-3542-2511（代）へかけて

交換手に「希少がんホットラインにつないで」とおっしゃってください。

※時間 平日9：00～16：00

※相談は無料ですが、通話料がかかります

※電話が繋がらない場合は、少し時間をおいておかけ直してください

※相談内容の秘密は厳守します

※正確な情報を提供するために名前などの個人情報をお伺いすることがありますが、答えたくない場合はその旨をお知らせください

▶ セカンドオピニオン外来

▶ 受診のご案内（中央病院 東病院）

国立がん研究センターホームページより